

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492800147	事業の開始年月日	平成23年1月1日
		指定年月日	平成29年1月1日
法人名	社会福祉法人 輝星の会		
事業所名	グループホーム こ・みかん		
所在地	(〒259-1315) 神奈川県秦野市柳町1-20-10		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年1月8日	評価結果 市町村受理日	令和5年6月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年1月27日	評価機関 評価決定日	令和5年4月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は小田急小田原線渋沢駅から徒歩3分の場所に位置し、周辺は、商店街もある住宅地のため、交通・生活の利便性が良い。駅から事業所までの道なりに柳町公園があり、現在は新型コロナ過で外出を控えているが散歩のルートとなっていた。建物は軽量鉄骨2階建てで各階に1ユニットが配置されている。隣接して同じ「みかん・こケアグループ」のデイケアサービスと居宅介護支援事業所があり、新型コロナ禍以前には協力し合って行事を開催していた。</p> <p>【同一グループの連携した介護サービス】 「みかん・こケアグループ」は社会福祉法人「輝星会」と医療法人社団「北條会」で組織されていて、グループ共通の理念やサービス方針を掲げている。利用者の状態が変化しても、常にその状態にふさわしいサービスを継続して提供できるように、グループは、介護、医療サービスの様々な連携に努めている。この事業所では同一グループの病院の医師がかかりつけ医として月2回往診して健康管理をするとともに急変時などには、いつでも医師に連絡が取れるようになっている。精神科の医師も月2回訪問し認知症の症状などで医療対応が必要な利用者を診ている。また、状態の変化で他施設に移る場合や入院する場合にも利用者が安心して、介護、医療サービスを受けられるように連携してサポートしている。</p> <p>【オンラインでの職員研修取り組み】 年間の研修計画を策定して、毎月研修を受けるようにしている。コロナ過で接触を避けるためオンラインでの研修を取り入れ、職員は毎月の研修テーマに沿った内容のオンライン研修を各自で受講して、受講内容についての報告書をオンラインで提出している。管理者は報告内容を確認して職員に再質問をするなどの方法で、職員の理解・知識定着の様子を把握している。4月には法人の理念や基本的な方針などの内容で新人研修を実施して、研修後に現場での指導を行っている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

運営法人である社会福祉法人輝星会で介護老人福祉施設、ケアハウス、居宅介護支援事業所を運営し、連携する医療法人で介護老人保健施設、デイケア、地域包括支援センターを展開し、自立から要介護5まで継続して皆様に必要な介護を提供することを目標にしております。短期入所も受け付けており、ニーズに即した柔軟な対応も取り入れています。渋沢駅より3分という立地条件で、地域に根差したサービスを提供しております。御家族の面会に便利の良い場所で今までの生活環境に限りなく近い生活を継続し、生きがいや楽しみをもって過ごせる様職員間の連携を大切に取り組んでいます。

事業所名	グループホーム こ・みかん
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の状態については主治医や法人内の他のサービスと連携し、サービスの継続に努めている。	みかん・こケアグループの理念は「プライドを大切にする」「連携に努める」「みんなの幸せを目指す」を共通理念として掲げている。法人内のグループホームでは 令和4年度サービス目標を「グループのメリットを生かす連携」「利用者には選ばれるサービスを提供する」「職員には選ばれる職場にする」と定め、理念とサービス目標を事務所と更衣室に貼って、日々目にしながら共有をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入っているが、コロナ禍の為、回覧板の共有をしている。	曲松第5自治会に入っている。回覧板が回ってきて地域の情報を得ている。新型コロナ禍で自治会の行事は中止が続き参加できていない。事業所も行事を中止していて地域の方を呼べなくなっている。事業所の前の歩道の清掃は継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個々の職員が地域で困っている方の声をかけている。コロナ禍の前は認知症カフェを行っていたが、休止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、紙面での開催となっており、関係部署には送っている。	運営推進会議のメンバーは、自治会長、西地域包括支援センター職員、市役所高齢介護課職員、法人の運営部長、事業所の職員で構成されている。運営推進会議は、新型コロナ禍のため2か月ごとに書面開催をし「入居者様の状況」「職員体制について」「活動報告について」と「事故報告について」の書類を構成メンバーに郵送またはメールで届けている。構成メンバーからの問い合わせや意見は出ていない。	新型コロナ禍で 集会での会議が開かれなくなり、ご家族の参加がない状況での、書面報告書類の送付となっています。書面開催であっても構成メンバーにご家族を位置づけ、ご家族にも事業所の状況を知っていただき、意見を頂く機会を増やしサービス向上に活かされることを期待します。

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>毎月の入居者数の報告や行政報告を行っている。また、わからないことはお聞きしている。</p>	<p>事故報告は、まず高齢支援課に電話をかけて報告した後に報告書類を持参している。事業所内で新型コロナウイルス感染が発生した際には、保健センターに相談し、入院先の病院を探してもらい、毎日状況報告を行った。県からは、マスク・防御服が支給された。市から給付される感染防止の備品は法人に届き、法人から事業所に支給された。</p>	
---	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修などで意識統一は図れているが、国道沿いということもあり、防犯安全上の為、玄関への施錠をしている。	「身体的拘束等適正化及び虐待防止のための指針」が作成されている。職員は7月と1月にオンラインで身体拘束についての研修を受け、研修報告を提出している。身体拘束適正化委員会は、構成メンバーを管理者、計画作成担当職員、介護職員、事務部長として3カ月ごとに開催している。現在やむをえず拘束をしている事例はない。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などで学んでおり、日々の関わりの中で、声掛けや対応に注意を払っている。また、職員同士もお互いの言動には気を配っている。必要時には、個別に声を掛けている。	虐待防止に関する研修は年2回オンラインで行っている。職員は感想や研修報告を管理者に提出している。 「身体的拘束等適正化及び虐待防止のための指針」が作成されている。入社時の新人研修の中でも虐待の防止について学んでいる。言動について不適切であると判断した場合は、その場で管理者やリーダーが注意をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や日常生活自立支援事業についても、研修に参加し、知識を高めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居時は、十分な説明を行い、重要事項説明書などの書類で明確に説明させて頂いている。書類内容の変更時には、事務より書面で同意を得ている。		

10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会などの機会に、御意見・ご要望をお聞きしているが、コロナ禍の面会制限で、電話や手紙で機会を設けている。</p>	<p>家族会は設置していない。新型コロナ禍で直接話せる機会は少なくなっているが物品や小遣い（現金）を届けに来たときやオンライン面会の時に聞くようにしている。これまで、特に意見は出ていない。請求書の送付時に利用者の様子を写真と手紙で知らせている。家族からは来所時に喜びの声をもらっている。利用者の家族からの「パソコンを繋げて、孫の結婚式をオンラインでおばあちゃんに見せたい」との要望に応え、利用者に結婚式の様子見せることが出来た。</p>	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	評価時期の面接時に時間を設け、意見を聞き、改善できることは取り組んでいる。	定期的な全体会議はないが、各ユニットごとに毎日「申し送りノート」と「申し送り表」で申し送りをしている。介護計画の見直しの時期にはケア会議を開き意見を出し合っている。手作りのセーターを着ている利用者を見た職員が「編み物ができるのではないかと」、気づき、現在は毛糸で帽子を編むなど、利用者の残存能力を維持できるように支援している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価時期のフィードバック時に面接をし、個人のおもいをきき目標設定をしている。	人事考課制度があり、年2回1月と11月に評価会議を行い、職員と個別面談をしている。職員は事前に「目標管理シート」や「介護職務基準書」に自己チェックをして提出している。管理者は職員の希望を確認し、昇格判定表をチェックしている。健康診断は全職員が受けており、夜勤者は年2回健康診断を受けている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加にはその意思を表明し、法人の決定によって参加費の補助、勤務への配慮をして参加の機会をとモチベーションのアップに努めている。	年間研修計画を立てて、毎月研修に取り組んでいる。職員は研修後、報告書を提出している。将来、計画作成者を目指す職員には「認知症介護実践者研修」の研修費用や交通費の半額を支給し、勤務時間は1/2出勤としている。職員自身が希望する研修の費用は、全額自己負担であるが、勤務日を調整して参加が叶うよう支援している。	

14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍の為、出来ていない。		
----	--	----------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛けを多くし、コミュニケーションによる安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前説明や入居時、入居後も電話等でお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご要望に沿うように生活歴もおききし職員間で共有している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはお願いして、ともに生活している雰囲気を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況を共有しながら同一課題点などの本人さまを支える関係を御家族と共に考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はあるが、近所に住んでいる人が訪ねてきてくれる。	近所に住む知人が訪ねてきたが新型コロナ禍で家族以外の面会を制限しているため、お断りをしている。法人の方針で外泊や外出を中止しているため、家族と墓参りに行くなどの馴染みの場所へ出かける機会もなかった。年賀状を出したい利用者がいて、年賀状の購入やポストへの投函などを行い、馴染みの関係継続を支援している。毎年、夏場に家族から脱水防止のためカボスジュースが送られてきて、体操の後や入浴後に飲むことを習慣にしている利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考え、席を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も様子を聞きながら、相談や支援に努めている（再入居に繋がったケースもある）。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いに耳を傾け、希望に近づけるように努力している。	利用者の思いを聞く機会は、職員と利用者が1対1になる入浴時や、くつろいでいる時の会話を傾聴して把握している。思いを言葉で伝えられない利用者には、2択で返事ができるように聞き方を工夫したり、表情や様子を観察して利用者の立場で検討している。把握した思いは、経過記録に記入して職員で共有して介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族から聞き取りをさせて頂いている。また、ケアマネジャーにも連絡し、情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々にあったレクリエーションや、お手伝いをお願いしている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人または御家族から聞き取りをし、介護計画を作成している。	介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行っている。「課題抽出用紙」に居室担当職員が日々の状況を記入し、他の職員は半月ほどの回覧時に、補足意見を記入している。「課題抽出用紙」の内容をもとにケア会議を開き、職員や医師、理学療法士、などの意見を取り入れ、介護計画を見直している。介護目標に連動した経過記録を記入している。	

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>細かな変化を記録に残し、情報共有をし、必要時は検討をしている。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で面会や外出ができないため、「オンライン」で面会をしたりしている。柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組ませて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で見合わせている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時に掛かり付け医に上申をしており、必要に応じて、他の病院への受診につなげている。	法人の医療機関「みかんクリニック」から月2回医師が訪問し診察している。診察結果は経過記録に記入して共有している。現在は利用者全員が「みかんクリニック」の医師をかかりつけ医としている。精神科の医師が月2回、必要な方の往診をしている。皮膚科や整形外科へは家族対応で通院して、受診内容の報告を受けて、経過記録に記載している。歯科の治療は家族対応で通院をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	熱発時の対応(処置)は、法人の看護師に来て頂き、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ソーシャルワーカーと密に連絡を取っている。入院時には、利用者が安心出来る様に、電話で病院関係者と御挨拶をさせていただいている。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師・介護職員・家族と方針を話し合い、対応し、支援に取り組んでいる。	契約時には、重度化して、状況が変わった場合、当グループ内の他の施設サービスや医療サービスと連携して介護サービスを提供することを説明している。契約書には入院治療が必要となるなどの退去時には介護の継続性に配慮して保健医療サービスなどと連携して、必要な援助をすることを明記している。2年前には医療が必要のない利用者の終末期への対応では、家族の希望を聞き、医師からの説明を受けて看取り介護計画に移行して、事業所内で看取った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変者発生時にマニュアルを用意して、職員が周知し、対応している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。 消防署との協力体制を取っている。	毎年3月には地震を想定した訓練に取り組んでいる。6月には日中の火災を想定しての避難訓練、10月には夜間の火災を想定しての避難訓練に取り組んだ。コロナ禍のため、地域の方に参加の呼びかけはできなかった。備蓄は法人の栄養士が備蓄リストを作り、食品の管理をしていて消費期限に合わせて補充している。食品と水は、利用者職員との人数の7日分を備蓄している。事業継続計画については法人で準備を始めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する研修を受けている。利用者らの尊厳・プライバシーを守る対応ができるように注意している。	個人情報に関する書類は鍵のかかるキャビネットに保管している。パソコン内のデータはUSBメモリーで保管している。居室に入るときにはロックをして許可を得てから入室をしている。入浴時やトイレ誘導時の声掛け等はプライバシーに配慮して小声で対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表し、自己決定できるように働きかけている	業務優先にならないように本人の希望を確認して支援・介助している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を基本にして、ご本人様に確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を身につけて頂く様に、衣類の入れ替えをし、選択して頂くようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、本人の希望をメニューに取り入れるようにしている。 片付け時には、食器拭きをして頂いている。	朝食と夕食の食材は、食材業者が土曜・日曜以外の毎日配達している物を提供している。昼食は、スーパーから週3回材料を配達してもらい、職員が献立を考えて調理している。利用者はもやしひげ取りや、盛り付け、食器拭きなどできる事を手伝っている。お誕生日には利用者の好みのメニューを提供している。夏場はプランターで夏野菜を育て、サラダなどにして提供している。利用者に合わせて刻み食やソフト食に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ストマ設置の方がいるので、尿量チェックを行いながら、補水を行っている。嚥下困難時には、トロミ剤やゼリーを使って対応させて頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者の状態に合わせて、毎食後口腔ケアに努めている。法人の歯科衛生士から個別の支援について指導を受けている。			
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄方法にあった支援をしている。	排泄チェック表を記入して利用者の排泄のパターンを把握している。トイレは利用者の様子や時間で誘導し、トイレでの自立排泄を支援している。夜間は睡眠優先としているが起床があればトイレに誘導している。入院中にオムツ使用となった利用者が、毎日のトイレ誘導でリハビリパンツにパット使用に改善した事例がある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難時には、歩行やスクワットを促して、個々に応じた予防をしている。			
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に気が乗らない時には、曜日や時間、職員を変えて、対応している。	バイタルチェック表に入浴した方を記入し、1日3名ずつ、1週間に2回の入浴を実施している。入浴の様子は経過記録に記入している。同性介助を希望される利用者にはそのように対応をしている。季節のしょうぶ湯やゆず湯も取り入れて、入浴を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には、声掛け・誘導を行い、休んで頂く時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が合わなかった時には、医師に相談し、調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割を提供し、嗜好品も個々の好みを用いて、対応させて頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、出来ていない。	日常的な外出はコロナ禍のため、法人の方針で感染リスクを考慮して、外泊・外出を控えるように指示が出ている。家族対応での病院受診には出かけている。年間行事で車でドライブしながら車窓からの景色（春の桜、初夏のあじさい、秋のもみじ）を楽しんでいる。駐車場を利用して外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持し、使えるように支援している	お金はトラブルになるので所持していない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望があれば、御家族に職員から電話させて頂き、お話が出来るように対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、共用の空間の清掃を行い、室温も季節に合わせて調節している。 季節に合った室内の飾りつけをするように務めている。	リビングルームにはエアコン。加湿器があり、温度・湿度の管理をしている。窓を定期的にかけて換気にも配慮している。掃除は日勤職員が掃除機をかけ夜勤者がモップをかけている。1日3回手すりなどの除菌を実施している。壁には季節に合った飾りつけをしたり、七夕飾りやクリスマスツリー、鏡餅を置いて、季節感を感じるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせたりするような居場所の工夫をしている	コロナ感染予防の為、互いの間隔を保てる配置で対応させて頂いている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からなじみがあるものを御持参頂き、工夫している。	居室にはエアコン・クローゼット・照明・電動ベッド・ナースコールなどが設置されている。防災カーテンは部屋にあるものを使用しても、好みのものを持参しても良い。利用者は仏壇や家族の写真、ブリザーブドフラワー、ぬいぐるみなど好みのものを飾っている。居室の掃除は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺やバリアフリーで安全な自立した生活が出来るように努め、各部屋には表札をつけわかりやすくしている。		

事業所名	グループホーム こ・みかん
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見えるところ（事務所、更衣室）に掲示し共有できている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入っているが、コロナ禍の為、回覧板での共有しかできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の前は法人との連携もあり、お祭りなどで地域の方に認知症の理解を広めていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、紙面での開催となっており、関係部署には送っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入居者数の報告や行政報告を行っている。また、わからないことはお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	オンライン研修で各自定期的に確認することになっている。国道沿いということもあり、防犯安全上の為、玄関への施錠をしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などで学んでおり、日々の関わりの中で、声掛けや対応に注意を払っている。また、職員同士もお互いの言動には気を配っている。必要時には、個別に声を掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方もおり、学ぶ機会となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居時は、十分な説明を行い、重要事項説明書などの書類で明確に説明させて頂いている。書類内容の変更時には、事務より書面で同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族の希望である面会が出来ていない状況。オンライン面会を行っている。電話で要望を着ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りの際に必要な事項を各階で共有している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の適性、希望を把握、配置している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で法人内研修はオンラインとなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム間での相互研修も検討をしていたが、実践できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、御家族と面接し、希望など聞いている。また、状態も把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初にグループホームの特性を説明、理解していただいている。出来るだけ本人に合うよう相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に聞き取りをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに生活している意識を持ち、対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族、職員、両者で支えていくことを家族に理解してもらい、実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年同様コロナ禍で受診以外の外出も出来ていない。面会はオンライン面会を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も様子を聞きながら、相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナ禍でできないことがあったが、なるべく本人の希望に近づけるように努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで聞き取り、その後も家族や本人から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、特別な場合は口頭、申し送りを使用している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子から変化を見つけ、反映している。Dr指示も入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に細かく記入、サービス計画に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望については聞き取り困難な方が多いため、ご家族に希望を伺っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	SOS登録を必要な方には行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた掛かり付け医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外部定期受診が必要な方はご家族の協力を得て実施。それ以外にご家族了承のうえ、法人内クリニックで対応している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師に相談したり、コロナ禍の対応もしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携している。ご家族にも情報をお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師・介護職員・家族と方針を話し合い、対応し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いざというとき、全職員が対応出来るとは言えない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持ち、個人に合わせた言葉かけを行っている。 個人情報には注意をし、見えないところに置いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表し、自己決定できるように働きかけている	本人のやりたいこと、食べたいものなどをきいてメニューに取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の状態に合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の入れ替えをし、入浴時に選択して頂くようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は手作りのため、食べたいものを作るようにしている。行事には出前を取ったり、誕生日には本人の希望を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶を好まない方にはご家族了承の上、好みの飲料を購入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者の状態に合わせて、介助している。義歯洗浄は毎日行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	座位可能な方は定時誘導をしている。それ以外の方は居室でパット交換している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動で排便困難な方はDRに相談し、緩下剤の調整をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	季節のお風呂（菖蒲湯、ゆず湯）は喜んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて、日中は活動的に過ごす方や、昼食後には、休んで頂く方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり状態の変化を記録に残し、定期往診の際に医師に報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割を提供し、嗜好品も個々の好みを用いて、対応させて頂いている。出来そうなものも提供することもある。職員と一緒にすることもある。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、出来ていない。が、ドライブなどで、景色を楽しんで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持し、使えるように支援している	お金はトラブルになるので所持していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族から度々電話やはがきが届く方がいる。その都度対応している。後で家族に見せるからと、日記をつけている方もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、利用者とコミュニケーションを取りながら季節にあった貼り絵などを作り、飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせたりするような居場所の工夫をしている	各々の性格を把握し、相性を考え、座って頂いている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が昔を思い出せる様な写真や記念の物を飾り、また新しく届いたものは目が行くところに置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の中に異食行為がある方もいて、テーブル上には物を置かないようにしている。		

目標達成計画

事業所名

711-70ホーレミカ

作成日

令和5年6月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ禍のため紙面での開催となっており関係部署に迷っている。	運営推進会議を対面にて開催する。	コロナ禍も落ちついてきているので感染状況もみなから感染対策を実施して対面にて開催する。	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。